

県中教研 美術部会だより

第 41 号

発行日 令和8年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 石黒 均
題 字 金山 泰仁 先生

〔共通事項〕の視点で授業を考える

指導主事 江田 希

今年度より「資質・能力を育成するための〔共通事項〕の指導の在り方」を研究する3年間が始まりました。〔共通事項〕とは、造形的な視点を豊かにするために必要な知識です。「形や色彩、材料、光等の性質に、どのような感情をもたらす効果等があるか」「造形的な特徴等を基に、全体としてどのようなイメージや作風等で捉えるか」を生徒が実感を伴いながら理解できるよう、先生方は様々な指導の工夫をしていました。

西部地区の研究大会の授業では、リンゴを立体表現する題材の導入で、発想や構想する力を高めようと、リンゴを観察する時間を設定しました。観察の視点として〔共通事項〕から「形や色彩、質感」を生徒に示し、気付いたことを書くようにしました。身近にある旬の食材をモチーフとして捉え直すことで、リンゴの造形的な特徴をじっくりと感じ取ることが期待できます。生徒は五感を働かせ、見た感じや手触り、香り等、リンゴの魅力を再発見したのではないのでしょうか。

『中学校学習指導要領解説美術編』49ページには、〔共通事項〕を位置付けた指導として、主題を生み出す場面や構想の場面、技能を働かせる場面、鑑賞の場面を例に、具体的な指導の在り方を挙げています。その題材でポイントとなる〔共通事項〕の視点を明らかにした上で、生徒が自分の目や心で見つめて捉え、理解できるような題材を設定することが大切です。その際、生徒の姿を具体的に思い描き、教材や学習活動を吟味することが大切だと思います。

「感動は心の扉をひらく」という言葉があります。生徒一人一人が感性や想像力等を働かせ、自分なりに捉えて理解したことを基に、表現したり鑑賞したりする喜びを味わえるよう、形や色等との感動的な出会いや新たな学びを、今後も大切にしていきたいと思います。

(西部教育事務所)

画像生成 AI について

部長 石黒 均

昨年の授業で、生徒が学習者用端末に主題やキーワードを入力し、画像生成AIに案を出させて「何か、ちがうんだよなあ」とつぶやいた場面がありました。私は、胸のざわつきと安堵を同時に味わい、当時はそれをAI側の未成熟と捉えました。しかしそれは、生徒の中に生まれたばかりの「思い」が、未整理のままAIへ投げ込まれ、返ってきたイメージと自分の感覚が一致しなかっただけではないかと思うようになり、今年は、意図的にAIとの対話を学習に位置付けてみました。生徒の「何かが違う」という感覚をより深く考える学びにするのがねらいです。AIの提案に違和感を覚える生徒に、その理由を自分の言葉で説明させます。自分が伝えたい情景や感情、形や色彩、構図等をよりの確にAIに伝えようとするには、新しいプロンプト（AIへの指示文）が必要になります。生徒には、「違和感」が解消されるまでAIとのやり取りを続けさせました。この「プロンプトを磨く」という行為は、まさに美術科で大切にしている〔共通事項〕と深く関わっています。作品の主題を捉え、何を表したいかを明らかにし、どのような方法で表現するか選んでいく。これは従来から美術教育が大切にしてきた学びのプロセスであり、AIが登場した今こそ、その重要性が浮き彫りになっているとも言えます。作品の中心にある「自分の内なる必然性」は、AIには読み取れません。だからこそ、生徒は違和感を抱き、言葉を探し、試し、また考えます。このAIとの対話のプロセスこそ、まさに創造活動であり、美術教育の価値そのものだと感じます。AIとともに表現する時代の中で、生徒が思考を深め、言葉を育て、表現の本質をつかむ学びをどう支えていくか。昨年の違和感と今年の取組は、私にその問いを改めて投げかけています。

(高・高岡西部中)

第69回中学校教育課程研究大会美術部会

東 部 地 区 入善町立入善中学校

大菅敦子教諭による1年生の「そのものらしさを形にして（彫塑）」の授業は、野菜や果物の形や色の美しさに着目し、題材と対話しながら表現を追究していく題材である。



当日の授業では、前時までに行った少量の粘土による試作で習得した粘土の扱い方や全体の形のスケッチ等を基に制作を進めた。制作の場面では、生徒は、道具や粘土の性質から、自分のモチーフに合う質感の表現に思い思いに取り組んだ。また、量感の確認のためにモニターを活用したり、様々な道具の質感表現の違いを紹介したりしたことは、生徒が集中して自分のモチーフに向き合う上で、有効であった。しかし、質感に意識が偏り、量感や形の捉え方に意識が向かない生徒の様子もみられたことから、量感から質感へと段階を踏んだ指導が必要だったのではないかとの意見もあった。

部会協議①では、彫塑表現について題材や素材の扱い方、指導方法等の紹介、ICTを使った振り返りの蓄積と全体共有等の有効性について意見を交わすことができた。部会協議②では、[共通事項]に関わる学習事例の紹介を地区ごとに行った。生徒が既習事項を活用し、美しさを感じ、心豊かに表現していく鑑賞の事例等が紹介され、今後の授業実践への刺激となった。

伊勢威知郎主任指導主事（東部教育事務所）からは、「今回の題材は基本的で馴染みがありながら、なかなか研究大会では取り上げられない粘土を扱った題材であり、指導の提案や各校の実践紹介は、特に[共通事項]である基本的な学習指導について、参考になることが多く、日頃の指導の振り返りにすることができたのではないかなど、助言をいただいた。

澤田 良子（黒・明峰中）

西 部 地 区 高岡市立南星中学校

田中里穂教諭による「このリングは○○かもしれないー発想を形にしようー」の授業は、生徒が「リング」というモチーフから自由に発想することを楽しみ、粘土で立体表現する題材であった。鑑賞を通して、教師は、生徒一人一人の見方や感じ方を深めることをねらいとした。題材の導入では、実物のリングを観察す



ることで、生徒は形や色彩、質感等の造形的な特徴を感じ取ることができた。また、教科書の作品等を鑑賞し、前時までにマッピングで発想を広げたりアイデアスケッチをしたりした。本時は、リングから生み出した発想を相互鑑賞することで、生徒は友達の発想のよさと工夫を考え、自分の見方や感じ方を広げて発想を膨らませることができた。そして、次時からの制作意欲を高めていた。

部会協議では、立体作品の制作に向けて「表現の仕方を話し合う場面設定」や、アイデアを絞り込む際の「モチーフをリングに限定することのメリットとデメリット」「表現方法の選択肢」「発想の広げ方の実践例」等について活発な意見交換が行われた。江田希指導主事（西部教育事務所）からは、「導入から制作に至るまで[共通事項]を位置付け、表現と鑑賞の指導の関連を図った題材構想の工夫がみられた」「曖昧で変化していく『イメージ』と生徒自らが強く表したいと思う『主題』の違いを意識し、『主題』を生み出すための指導が大切である」と話があった。そして、「授業の中の言語活動のねらいや方法の吟味と、制作時間を確保するためのタイムマネジメントの必要性」「主体的に主題を生み出したり自己調整したりしながら学習する工夫」「思考ツールを活用した評価」等について助言をいただいた。

川路 聡美（高・志貴野中）